



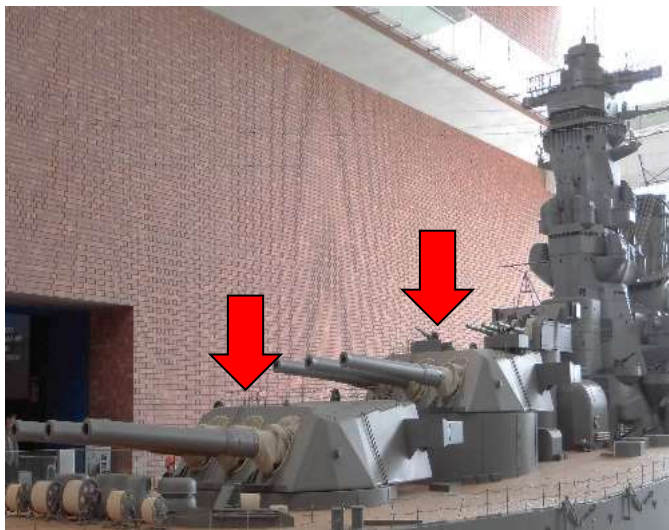
10分の1「大和」徹底解剖 ①主砲



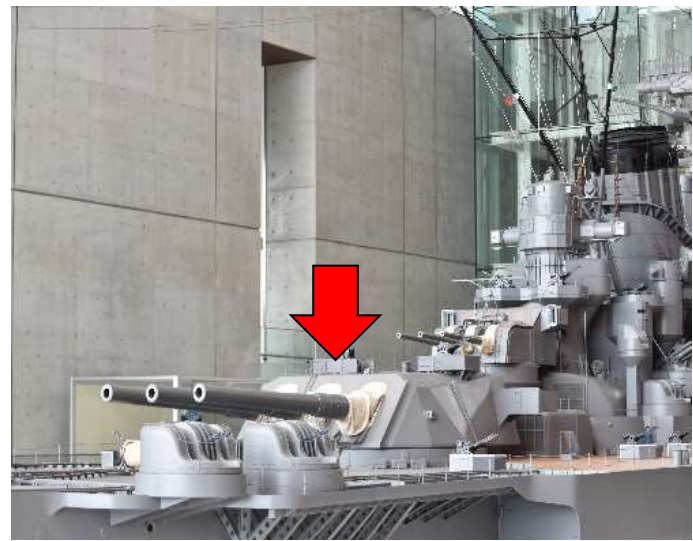
「大和」の主砲は世界最大！



主砲とはその船に載せられている大砲で一番大きなものを指します。10分の1戦艦「大和」の主砲を見てみましょう。



▲10分の1戦艦「大和」第一・第二主砲（艦首側）



▲10分の1戦艦「大和」第三主砲（艦尾側）



量より質を重視

日本は、アメリカやイギリスなどと比べ国力が小さく、たくさんの戦艦をつくることはできませんでした。そのため、船の能力を向上させ、他の国に対抗しようとしたのです。「量より質」を徹底したのが戦艦「大和」であり、ひとつの艦の威力を圧倒的に強大にするため、世界最大の46センチ主砲を採用しました。46センチ主砲は戦艦「大和」の最大の特徴ともいえます。

46センチ砲の主砲弾が大和ミュージアムにてんじ展示されているんだよ！



▲戦艦「大和」型 主砲弾



▲大和ミュージアム大型資料展示室内

戦艦「大和」の主砲弾は、1秒間に780mの速度（時速2,800km）で飛んでいき、約42km先に届きます。

え～！？



ちなみに、「大和」の主砲より大きい48センチ砲の実験が、呉市倉橋町の「亀ヶ首」という場所で行われていたんだよ。

一口メモ

大和型戦艦の主砲弾は「九一式徹甲弾」でした。目標の直前で水面に着いた主砲弾は、着水した時の衝撃で、先端部分がはずれ、平らな部分が出現します。先端が平らな砲弾は、まっすぐ海の中を進んでいきます。これは日本独自の技術で、海軍の重要な秘密である「軍機」として取り扱われました。